

文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 ^(コ01)

研究組織 西和彦、松浦一之介（2021年10月から）、藤澤綾乃、石田智香子（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（文化財情報資料部）、石村智（無形文化遺産部）、境野飛鳥（客員研究員、2021年7月まで文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー）

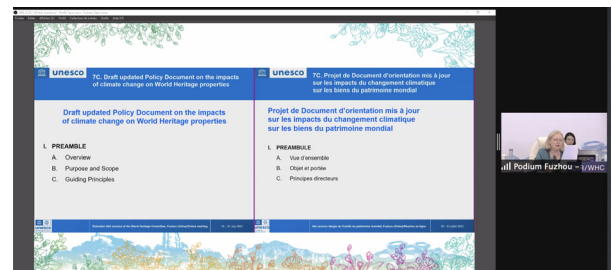
目的 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みつつ優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。

成果

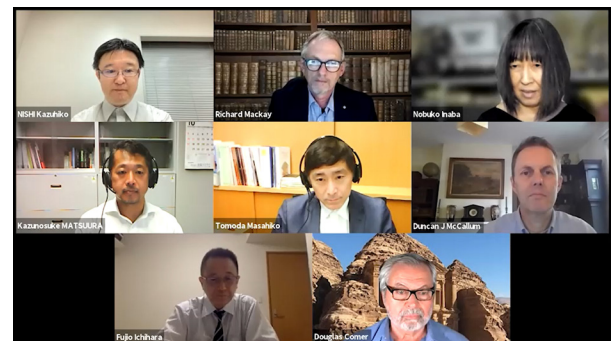
1. 文化遺産保護に関する情報収集のための国際会議やシンポジウム等については、世界遺産委員会等を始めとして、第32回国際文化財保存修復研究センター総会などそのほぼ全てが新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催となった。これらに参加して情報収集を行った。
2. 文化遺産保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業については、カナダ政府の元担当者に依頼したカナダの文化財保護制度の概説を含む『各国の文化財保護法令シリーズ [26] カナダ』を刊行した。
3. 例年行っている「世界遺産研究協議会」については、令和2年度に引き続き我が国の文化財の「整備」をテーマとして取り上げ、オンライン配信のかたちで開催した。

刊行物

- 『各国の文化財保護法令シリーズ [26] カナダ』東京文化財研究所 22.3
- 『世界遺産研究協議会「整備」をどう説明するか(第2部)』東京文化財研究所 22.3



中国・福州で開催された拡大第44回世界遺産委員会（オンライン）



令和3年度世界遺産研究協議会第2部討論会

アジア諸国等文化遺産保存修復協力^(コ2)

研究組織 金井健、友田正彦、安倍雅史、間舎裕生、浅田なつみ、ヴァルエリフベルナ、岡崎未来（以上、文化遺産国際協力センター）、山田大樹（客員研究員）

目的 東南アジア、西アジア及びその周辺地域における文化遺産の保存活用に関する調査研究の実施ならびに当該地域で行われる文化遺産の保存修復事業への協力を通じて、我が国が有する文化遺産保護に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成果

1. カンボジア アンコール・タネイ寺院遺跡保存整備事業に対する支援等

ア) アンコール・シエムレアプ地域保存整備機構 (APSARA) との共同調査の実施

東門の修復工事（再構築）の完了確認及び要修整箇所
の調査、アンコール保存事務所 (ACO) 保管のタネイ
寺院遺跡出土彫像遺物の調査、東門周囲の水はけ改
善に向けた外周壁東面の発掘調査と排水対策案の検
討、中央伽藍建物群の危険箇所の確認と構造補強案
の再検討（2022（令和4）年1月9日～24日）

イ) アンコール遺跡保存国際調整委員会 (ICC-Angkor) 技術会合への参加等（オンライン）

ICC-Angkor アドホック専門家会合への参加（2021
（令和3）年6月28日～29日、10月11日）、ICC-
Preah Vihear 第6回・第7回技術会合の傍聴（9月
29日、2022（令和4）年3月22日）、在カンボジア
日本大使館のタネイ寺院遺跡視察への資料提供（11
月9日）、ICC-Angkor 第28回総会及び第35回技術
会合への参加（2022（令和4）年3月24日～25日）

2. ネパールの被災文化遺産保護に関する支援

JICA 短期専門家派遣による考古学発掘調査及び測
量調査手法に関するネパール文化観光航空省考古局
(DoA) 職員への技術移転及びハヌマンドカ王宮内シ
ヴァ寺院基壇部の現状調査（2021（令和3）年12月3
日～19日）、ネパール復興庁 (NRA) 主催の国際会議
ICNR2021 への参加（12月7日～9日）

3. オンライン研修及び研究会

ア) 国別テーマ研修・インドネシア「文化遺産の保護
に資する研修」（ACCU 奈良事務所主催）への協力
（2021（令和3）年10月8日～21日）

イ) 研究会（ウェビナー）「考古学と国際貢献：イスラ
エルの考古学と文化遺産」の開催（2022（令和4）年2月
20日）

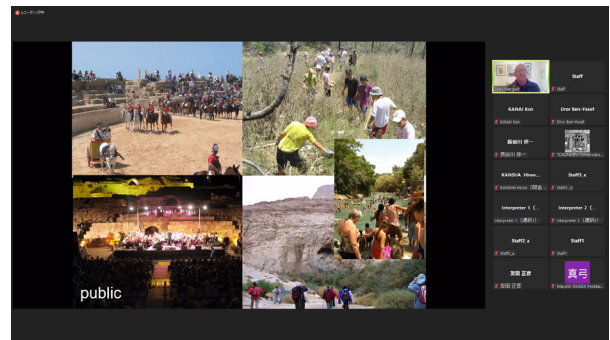
ウ) オンライン国際研修「3次元写真測量による文化遺
産の記録」の開催（2022（令和4）年3月15日）

発表

- 金井健「建築遺産における写真の役割」ACCU 奈良事務所
国別テーマ研修・インドネシア 21.10.14
- 間舎裕生「日本の調査隊によるイスラエルの考古学調査
の歴史」研究会 考古学と国際貢献：イスラエルの考古学
と文化遺産 22.2.20

刊行物

- 『考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産 研
究会記録』東京文化財研究所 22.3
- 『大陸部東南アジアの古代木造建築を考える』東京文化財
研究所 22.3
- “Exploring the Ancient Wooden Architecture in
Mainland Southeast Asia” Tokyo National Research
Institute for Cultural Properties, 22.3
- 『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 令和3年度成果報
告書』東京文化財研究所 22.3



研究会（ウェビナー）「考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産」
ゼエヴ・マルガリート博士の発表

保存修復技術の国際的応用に関する研究^(コ03)

研究組織 加藤雅人、前川佳文、安倍雅史、牛窪彩絢、ヴァルエリフベルナ(以上、文化遺産国際協力センター)、朽津信明、犬塚将英(以上、保存科学研究センター)、水谷悦子(保存科学研究センター併任、文化財防災センター)

目的 文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。本プロジェクトでは国内の専門家及び諸外国の研究機関とネットワークを構築し、壁画をはじめとする不動産文化財を中心に、保存修復技術の最新動向を踏まえた基礎的・基盤的研究を行うことを目的とする。また、得られた成果は文化遺産国際協働の場で応用し、保存修復技術発展への貢献を目指す。

成果

1. ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院外壁及び壁画の保存に向けた調査研究と技術指導

当初計画では、7月と1月に同遺跡Me-taw-ya寺院及びLokahteikpan寺院での現地専門家を対象とした人材育成事業及び保存修復事業を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から当初計画を変更してオンライン会議を開催し、維持管理に係る助言を行った。また、これまでの活動成果の一部をまとめて出版した。(オンライン会議:2021(令和3)年4月24日、6月6日、7月3日、9月11日、12月19日、2022(令和4)年2月19日)

2. スタッコ装飾及び塑像に関する研究調査

当初計画では、6月と10月に地中海沿岸地域での調査を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響からこれを延期し、欧州専門家とのリモートによる意見交換会を年3回開催した。また、緊急事態宣言が解除された10月より、国内のスタッコ装飾を対象にした調査を行った。(意見交換会:2021(令和3)年5月29日、7月31日、9月11日)

3. 壁画断片の保存修復方法に関する研究

様々な要因で剥離・剥落した壁画断片の保存修復方法について、新たな技法の開発を目標にした各種実験研究を行った。

4. トルコ・アンカラ ハチバイラムヴェリ大学(AHBV)との壁画保存修復に係る共同研究に向けた合同会議(オンライン会議:2021(令和3)年12月15日)

論文

- Maria Letizia Amadori, Yoshifumi Maekawa, et al.: Organic Matter and Pigments in the Wall Paintings of Me-Taw-Ya Temple in Bagan Valley, Myanmar, MDPI 21.11

発表

- 前川佳文、ダニエレ・アンジェロットほか:「ミャンマー・バガン遺跡における複合文化財として捉えた煉瓦造寺院の保存修復」日本文化財科学会第38回大会 21.9.18-19

刊行物

- 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所/前川佳文、嶋原由美『世界遺産ミャンマー・バガン遺跡 華麗なる壁画の世界』雄山閣 21.11
- 『スタッコ装飾及び塑像に関する研究 令和3年度成果報告書』東京文化財研究所 22.3

在外日本古美術品保存修復協力事業 ^(コ04)

研究組織 加藤雅人、友田正彦、片渕奈美香、清水綾子（以上、文化遺産国際協力センター）、江村知子、米沢玲（以上、文化財情報資料部）、三本松俊徳、佐々木薫（以上、研究支援推進部）、大河原典子、杉山恵助（以上、客員研究員）

目的 日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、日本文化財の保存修復専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、本事業では海外で所蔵されている日本文化財の保存修復に関する助言等の協力を行う。また、本格的な修復が必要な絵画作品に関しては日本で修復して返還する。さらに、日本とは異なる条件にある海外所在作品に関して、その保存修復方法の研究を行い、成果を公開、共有する。

成果

令和3年度は、2件の作品修復を進めた。また、既に修復が終わり、所蔵館に返還した作品については報告書を作成した。

1. 作品修復

- 「女房三十六歌仙扇面貼交屏風」
モントリオール美術館（カナダ）所蔵。紙本金地着色。屏風6曲1双。
本作品の修復を行った。
- 「熊野曼荼羅」
モントリオール美術館（カナダ）所蔵。絹本着色。掛軸1幅。
本作品の修復を行った。

2. 報告書

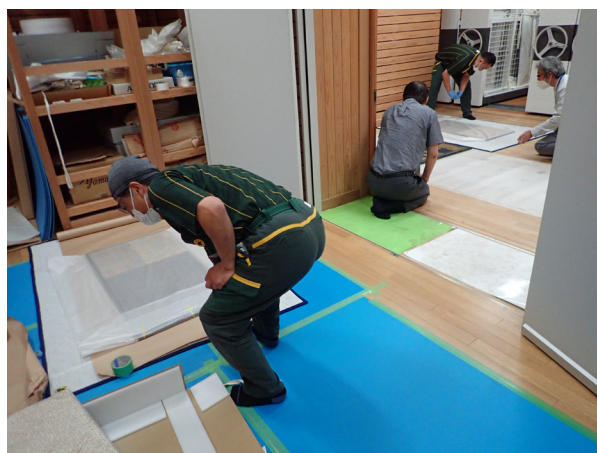
- 『在外日本古美術品保存修復協力事業 親鸞聖人絵伝 No.2015-4 修復報告』
ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア（オーストラリア）所蔵「親鸞聖人絵伝」（絹本着色、掛軸4幅）の修復報告書を作成、刊行した。

刊行物

- 『在外日本古美術品保存修復協力事業 親鸞聖人絵伝 No.2015-4 修復報告』 東京文化財研究所 22.3



表装の解体（「熊野曼荼羅」）



修復工房へ搬送するための作品梱包（「女房三十六歌仙扇面貼交屏風」）

国際研修 (コ05)

研究組織 加藤雅人、五木田まきは、大川柚佳(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存科学研究センター)

目的 近年、日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。そこで、国内外において関係諸機関との共催あるいはそれらの機関の協力を得て研修等を開催することで、保存修復関係者への技術移転と情報共有を行う。

成果

本事業では「紙の保存と修復」(文化財保存修復研究国際センター (ICCROM) との共催)、「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」(ICCROM、メキシコ文化省国立人類学歴史機構 国立文化遺産保存修復調整機関 (CNCPC-INAH) との共催)を毎年行う予定としている。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により上記研修の中止を余儀なくされた一方で、これらの最適化を図るために今までの研修の評価を行った。また、新型コロナウイルス感染症が蔓延するような状況への対応も見据え、研修へのオンライン化導入に関してその可能性から検討した。

1. これまでの研修の評価

- 運営資料のデジタル化
1992 (平成4) 年度及び1998 (平成10) 年度分
- 国際研修「紙の保存と修復」評価アンケート
アンケート回収期間：
2022 (令和4) 年3月～5月
実施者：東京文化財研究所、ICCROM
対象者：過去の研修修了者
内容：研修内容の活用実態の調査



IT 技術導入のための実証実験

2. オンライン化導入に関わる検討

- 意見交換会
期 日：2021 (令和3) 年5月14日
方 法：研究所における会議とオンラインの併用
参加者：国際研修事業関係者、教育機関等での実技指導経験者
内 容：リモートでの講義、実技指導の手法や課題等についてのヒアリング
- 国際研修におけるIT技術導入のための実証実験
期 日：2021 (令和3) 年9月1日、9月8日～15日、11月24日～25日
会 場：東京文化財研究所
研修生：研究所職員
講 師：装潢修理技術者、研究所職員
内 容：講義 (伝統的接着剤、紙)、装潢修理技術実習 (卷子修復)、ディスカッション
- 報告書
内 容：実証実験内容及び結果、ディスカッション、事後アンケート
公開方法：PDFデータを東京文化財研究所刊行物リポジトリに掲載

刊行物

- 『国際研修「紙の保存と修復」リモート開催の可能性』 (PDF版のみ) 東京文化財研究所 22.3